

キラリ山形
元気な会員企業

長年の経験と技術力 東北トップの完工高

大正年間に創業して以来、各種屋根工事はもとより外壁工事で実績を挙げ、6年連続東北トップの完工高を維持する(株)ホシカワ。「絶えざる技術の研鑽と明るい職場づくり」をモットーに、長年の経験と最新の技術で社会ニーズに応えている。

「夢と理想のない人には信念がなく、信念のない人には計画がなく、計画のない人には実行がなく、実行のない人には成果がなく、成果のない人には報酬がなく、報酬のない人には幸福はない」。工場の事務室に、星川昇(のぼる)会長の言葉が掲げられている。

金属屋根工事のパイオニア(株)ホシカワの歴史は、大正年間に遡る。星川会長の父、創業者の星川明氏は1904(明治37)年、舟形町の大地主の家に生まれる。しかし、奥羽本線舟形駅―新庄駅間の隧道建設工事に、所有地を提供したことなどから家が傾いた。7歳のときに、伯父にあたる山形市本町の第一小学校近く

にあった真木板金に、徒弟として住み込む。そこで木羽ぶき、亜鉛鉄板ぶきの技術を仕込まれ、併せて、じょうろ、ひしやく、米びつといった日用品をつくった。

板金屋根工法は、山形のような積雪の多い北国で発達した。工事に特別の施工が必要だ。10年間の厳しい修業を終えて1918(大正7)年に独立し、山形市材木町(現・十日町)に、個人事業所「星川板金」を起こした。

県、樺太招魂社を請け負う

大きな転機が訪れたのは1933(昭和8)年。宮町から所在地の千歳公園に遷座する山形県招魂社(現在の山形県護国神社)拝殿屋根の銅板ぶき工事を請け負った。そのときの拝殿は、1994(平成6)年に改築されたが、完成した拝殿の前で記念撮影する初代明氏と職人たちの写真が残っている。

こうした神社仏閣における屋根工事の卓越した技術は、内務省土木局

(株)ホシカワ

創業昭和2年、株式会社設立昭和41年。星川拡一代表取締役社長(写真下左)。屋根工事・内外装工事・ALC工事・防水工事・パネル工事。本社＝山形市東山形1・6・26。☎023・632・2166。写真下右は県招魂社の銅板ぶき屋根工事完成の記念写真。中央が創業者星川明氏



ンタンクの製作を引き受け完納した。

戦後は、後継者養成に力を入れる。昭和30年に、山形県板金工技能者養成運営委員会を組織し委員長に就く。全国の同業者と共に職業訓練法制定に奔走。さらに、山形地区板金工技能養成所、山形県板金工業組合のそれぞれ初代の理事長を務める。文字通り板金業界の草創期をリード。昭和42年の第1回「現代の名工」に、山形県からただ1人選ばれる榮譽に輝いている。

星川会長は1936(昭和11)年生まれ。今年80歳。山形東高から中央大学法学部に進んだ。二男であり

家業を継ぐ気持ちはなかった。ところが、大学3年の時に父が倒れた。

兄は早稲田大学で建築を学び、建設省入りを希望していたため、卒業を待って帰郷した。

東北一円に営業エリア拡大

父が育て上げた職人と共に、屋根工事から内外装工事、防水、パネル工事と業種広げ、東北一円に営業エリアを拡大し今日の礎を築いた。

県内の主な工事を紹介すると、山形市総合スポーツセンター、山形県生涯学習センター「遊学館」、山形県立中央病院、山形市民プール、山形

県総合安全運転センター等々。最近では南陽市文化会館を施工した。

1991(平成3)年5月、株式会社設立25周年を記念し、社名を(株)星川板金工業所から(株)ホシカワに変更。併せて仙台営業所を開設した。

2011年3月の東日本大震災では石巻、女川、塩釜の水産物卸売市場の外壁工事や、仮設住宅等の復旧工事にかかわり、被災地復興に貢献している。

現在、同社は地元、宮城、福島県内とともに、北関東での受注に力を入れている。3代目として事業をけん引する星川拡一社長は、「材料、形

状が進化、現場ではクレーンを使うなど工事が一段と大型化しており、安全作業に十分留意しなくてはならない」と語る。

東京五輪見据え事業展開へ

その上で、「2020年の東京オリピック・パラリンピック開催に向けて、首都圏のインフラ整備が佳境に入っている。連動して北関東地方では、首都圏での工事に使用する建築用資材等を納める物流倉庫の建設が進む。これまでの実績と技術力、営業力を活かし、積極的に参入していきたい」と語っている。



歴史的建造物から最新の大型工事まで。(株)ホシカワが手掛けた上から唐松観音(山形市)と、2015年10月にオープンした南陽市文化会館。下は天童工場の資材加工作業場